

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	尊厳・安全・地域密着の三本柱を盛り込んだ、グループホーム高砂の介護理念を作成、介護業務の柱として取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、夜勤から日勤業務への引継ぎの際、理念をみんなで唱えてから業務を開始している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ユニット別の玄関口に介護理念を掲示しているが、理念についての取り組みを含め説明等はできておらず、したがって家族・地域の人々に高砂介護理念の理解浸透できていない。	○	運営推進会議を通じて地域に密着した高砂の介護理念を広めるように取り組んでいきたい。又、入所時や家族会の際に高砂介護理念の説明を家族さんに行い理解に向けて取り組みたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	場所的に隣接した近隣住居がなく、人通りもすくないため、日常的な付き合いはできていないが、一階にあるデイサービスの利用者との常々交流をもち、行事等も合同で参加してご近所までとはいかないが、阿南市内単位での交流は図れている。	○	季節によって頻度は違うも近所への散歩の際には明るく挨拶を行い、気軽に高砂に立ち寄っていただけるような関係作りに取り組みたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一度地元の集会に参加させていただき、また、近所のお墓・神社の清掃にも参加させてもらったが、まだまだ充分とはいえない。	○	今後も積極的に自治会、老人会等の地域活動に参加し、地元との交流に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	去年、地元の集会に参加した際、認知症・健康相談の窓口を一度だけアピールしたのみ。	○	今後も積極的に自治会、老人会等の地域活動に参加し、認知症・健康相談等の窓口をアピールしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義・必要性等の認識がスタッフ全員に理解できていない。	○	このたびの外部評価を機会にスタッフ全員に自己評価及び外部評価の意義を周知してもらい介護の質の向上につなげたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を開催していたが、去年11月より開催が延期されている。	○	早急に次回運営会議の開催について取り組みたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	19年度は阿南市介護保険課の実地指導は阿南市内グループホーム合同での指導となった。それ以外での市町村との行き来する機会はなかった。	○	具体的な取り組み方がわからない。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護支援専門員の研修会等に参加し権利擁護についての学習はしているが実際に権利擁護対象となる方が今まではいなかったため、支援した事例はない。	○	権利擁護制度について今後も積極的に学んでいき、事故発生の際、円滑に活用できるよう取り組みたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在までに、虐待の事例がなく、又、可能性も低いために、虐待防止に対しての具体的な取り組みはできていない。	○	勉強会を設け、虐待防止への認識を高め、利用者への虐待が防止できている組織作りを行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前より、事業所のシステムをなるべくわかりやすく家族に説明するように心がけており、また、解約に対してはそれ以上に充分説明し、入居中であっても、状態に応じて家族と今後の相談等わかりやすく、不安を抱かないように相談・説明に努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所と各ユニットに苦情箱を設置しているが、現在までに一件のクレームがあったのみ。件数からして充分運営に反映しているとはいえない。	○ 家族・入居者とコミュニケーションを深めなんでも言っていただけ関係作りに努めるとともに、個別では言いにくいご意見などを家族会等言いやすい環境のもとで日ごろの苦情・相談等を受け入れる体制をとっていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一度の高砂便りを通じて日ごろの生活(特に行事)を家族に報告している。また、面会時にもできるだけ日ごろの生活や心身の状態の報告に心がけている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所と各ユニットに苦情箱を設置しているが、現在までに一件のクレームがあったのみ。件数からして充分運営に反映しているとはいえない。	○ 家族・入居者とコミュニケーションを深めなんでも言っていただけ関係作りに努めるとともに、個別では言いにくいご意見などを家族会等言いやすい環境のもとで日ごろの苦情・相談等を受け入れる体制をとっていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に二回スタッフミーティングを開催しスタッフの意見・提案を聞く機会を設けている。また、現場にフィードバックできるように努力している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	安定した介護力を維持できるように職員配置の調整に気を配り、またスタッフにも協力してもらっている。	○ 安定した数の職員配置ができるよう退職等にて欠員が生じた場合速やかに求人活動を行っていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	取り組んでいない。	○ 具体的な取り組み方を検討。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加はしているが計画を立ててまでの取り組みではない。	○	おおよその年間研修計画に基づいた職員の育成に努める。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	19年度に徳島県認知症協会南ブロックでの相互評価にも参加し各事業所とのネットワークづくりに取り組んでいる。	○	今後も機会あるごとに各事業所とのネットワークづくりに取り組み、相互的なサービスの向上に役立てたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員遠足・忘年会等の開催。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	給料の昇給・ボーナスの査定を行う。	○	個別に仕事の悩み・相談にもものっていききたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの相談があった場合、まず、対象者との面接に重点をおき、直接対象者からのニーズをできるだけ出していただく為に、面接に向けての調整、事前調査、面接現場での気配り等を実践している。	○	面接技術の向上に努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、高砂施設を見学していただきその際にできるだけ相談・説明を行い入所する・しないにかかわらず可能な限りのアドバイスをを行っている。また、電話での相談にも積極的に行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接・事前資料を考慮しケアマネとも連携を築きながら速やかに適切な回答ができるように取り組んでいる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限りご本人にも施設見学をしていただくようにして、対象者の見学時より高砂の雰囲気を感じていただくことにより、入所時にできるだけスムーズに馴染んでいただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	すべての職員が介護経験が充分あるとは言えず、したがってこの項目は実行できていない。	○	研修や現場での指導を通じて、介護職としての知識・技術の向上をめざす。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの生活状況を説明する際に、良くなってきている事などを家族さんにも感じていただくような説明を行っている。	○	今後も家族と施設とのネットワークを拡大させ、どんどん家族の視線もサービスに盛り込めるように努める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	その日の対象者の状態を考慮し、家族さんにも相談したうえで直接・間接的な関係づくりを行っている。	○	入所時・面会時にこれまでの対象者と家族との関係をうかがい、対象者の状態に応じた家族の関わりを築けるように努める。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで対象者の近所を通る際などには、声をかけできるだけ懐かしさ等を感じてもらえるような支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その日その時間の対象者の状態を観察しトラブル防止や相互性のある作業などを考慮しながら取り組んでいる。	○	まだまだ不十分な結果(トラブル発生等)となっており、今後もなおいっそうの取り組みを行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	心がけているが、事実はない。	○	心がける。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	三ヶ月に一度定期的にスタッフによる担当者会議を開催しアセスメント・モニタリング・再検討を行い、本人本位のサービスの提供に心がけている。	○	定期的な見直し以外にもその時々に応じたケアの提供ができるように努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報収集に終わることなく面会時の家族からの情報収集および、対象者との生活の中でも情報を抽出できるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	表情・バイタルサイン・言葉・行動・食事・睡眠状態等を観察・把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス計画を家族に渡す際、十分な説明と同時に家族の意向も伺って、意向があれば作成の見直しを行っている。また、対象者の立場になってのサービスになるように心がけている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	できるだけ、対象者のニーズに合わせるタイミングで見直しを行いたいと思うが、現状では定期的な見直しとなっている。	○	定期的な見直し以外にもその時々に応じたケアの提供ができるように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を介護のツールとして充分活かされていない。	○	業務改善・スタッフの教育・意識付けを行いながら検討。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの車・運動器具等の利用可能な環境にて、ドライブや買い物等またリハビリ・リラクゼーションに努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民間ボランティアは適時(誕生会・クリスマス会・敬老会)活用しているが、他の機関との活用はしていない。	○	検討課題とする。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	活用していない。	○	ネットワークを広げるように努める。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事実発生がないため実働していない。	○	運営推進会議にて協議しスムーズな利用ができるようにしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専任の看護師による観察、それにより速やかな医療の連携が取れるような体制が取れている。また、毎週木曜日かかりつけ医のDrの訪問診療を行っている。また、病状の説明はできるだけ速やかに、小さなことでも家族へ報告できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	県南メンタルクリニックにて状況に応じての診察、相談を受けるように体制をとっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	専任看護師による医療・保健の支援ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院との連携体制を強め、情報の共有・相談ができるだけ速やかに行え、対象者や家族の負担の軽減に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの介護実践がスムーズに開始できるように、介護・医療のチームで取り組む姿勢がある。看取りに対する指針の作成もできている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りの介護実践がスムーズに開始できるように、介護・医療のチームで取り組む姿勢がある。看取りに対する指針の作成もできている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院や別の施設への住み替えの際、口答もしくは文面にて情報の提供して、ダメージの減少に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	対象者個々の生活歴・性別・性格等を充分理解するように努め、プライバシーの確保ができるように支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を可能な限りできるように、対象者個々の状態に合わせた声かけ等の支援を行っている。	○ 認知症についての認識不足のスタッフもいて、勉強会等を行いながら全体的な介護の質の向上をめざす。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り対象者本位の姿勢で、個々のペースを重視した支援に努めている。	老人介護についての認識不足のスタッフもいて、勉強会等を行いながら全体的な介護の質の向上をめざす。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴準備・外出時・普段の更衣時などは介助必要な対象者でも可能な限り本人に選択・決定していただくような支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	対象者の能力や体調・精神状態に応じて食事の準備・かたづけ・調理手伝いなどを職員と共に行っている。	○ 認知症についての認識不足のスタッフもいて、勉強会等を行いながら全体的な介護の質の向上をめざす。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコ・飲酒等の嗜好品については事前に本人や家族と相談し安全を基本としたかたちでの支援を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを常々アセスメントし、できるだけ安楽で不快の減少ができるような排泄ケアの提供に取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声かけの際、時間指定等もうかがい可能な限り要望に近いかたちで入浴サービスの提供を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調を把握し、その時々ベストな安楽の形を考えながら取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	たとえば調理の手伝い、たとえば洗濯物の取り込みやタミなどを対象者の状況に応じて支援できるようにしている。	○	認知症についての認識不足のスタッフもいて、勉強会等を行いながら全体的な介護の質の向上をめざす。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は基本的に事情所が行っているが、買い物の楽しみを味わせる対象者には買い物の際現金を手渡し、本人により現金を用いて買い物ができるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の心身の把握のもと、可能な限り要望があれば職員見守りのもと散歩等に出かけてもらっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた遠足を企画実行し、家族参加も呼びかけている。また、2～3人のグループにて適時近所の、海・山・買い物に出かけてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の心身の状況の把握をしたうえで本人に電話をかけてもらったり取り次いだりの支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人・友人等が面会に来た際、状況に応じて記念写真などを行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は現在・過去に行っていないし、今後も行わない。ただし、身体拘束についての正しい認識を全スタッフが把握できていない。	○	勉強会を通じて、身体拘束の基本的な知識を全スタッフに認識してもらい、身体拘束をしないケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関とベランダ出入り口には鍵をかけている。鍵をかけないケアが望ましいとは思いますが現状では困難である。	○	現状を考えると、鍵をかけられてのストレスの面でのケアを優先・取り組みたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室にはナースコールボタンを設置し、夜間照明にも最小限の明かりにて対象者の状態が観察できる設備を備えている。また、死角のスペースにはカメラを設置し、夜間の観察にも対応できている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の能力や心身の把握のもと、ハサミ・ナイフ・縫い針等の所持・管理ができるよう取り組んでいる。また、自己管理ができない対象者にはできるだけ同意のもと事業所で管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の心身の状況を常々把握し、その状況・状態に応じた事故の未然防止ができるよう取り組んでいる。	○	火災等災害時の訓練、急変・救急時の対応を勉強会等にて取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の連絡体制は整っているがしばらく勉強会を開いていない。	○	勉強会の開催。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防と連携をとり、年に二回の火災時消火避難通報訓練及び年一回の津波による避難訓練の実地している。また、災害時の避難地区に指定されており協力体制もある。	○	地元住民との災害時等の合同訓練の実地を検討。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	できるだけ、家族には予想されるリスクについて説明し、家族とリスクの回避について話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	専任の看護師による保健・健康管理を提供し、週一度のかかりつけ医による訪問診療を行い、体調の変化に速やかに対応できる体制をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各カルテに差込、随時看護師による副作用等の説明指導を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の基礎知識は全スタッフには理解できていない。が、排便の回数の把握に努め、Drによる緩下剤等の指示のもとによる排便のコントロールに努めている。また、献立メニューにもできるだけ多く野菜を摂取してもらうように心掛けている。	○	勉強会の開催。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の能力・心身の把握に努め、口腔ケアチェック表をもちいて、その人なりの口腔ケアの支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の心身の把握に努め、必要に応じて水分の摂取量の観察・支援を行い、記録として残している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	季節ごとの感染症や疥癬・MRSA等の近隣施設の発生状況の状態に応じて基礎知識の説明を行っている。また、マニュアルもある。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒に対するマニュアルを作成し適時、指導を行い、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節を感じていただけるように飾り物を工夫している。例えば雛人形・こいのぼりや五月人形・正月飾り等。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光を多く取り入れるよう建物が構造できていて、また、温度・湿度計にて空調の調整を行っている。壁にはレク・催し・日々の生活などの写真を掲示するなどの工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやイスをテレビ周囲にもうけ、リラックスしながら観賞してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ馴染みのある品々を居室に配置し、さらに使い勝手がいいように対象者の意見等を取り入れた配置に努めている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間居室・ホールとも換気を行っている。トイレも定期的に清掃・チェックを行い対象者に対して不快を与えないように努めている。また湿度・温度計を各ユニットに設置し温度調節にも努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドにしても下肢筋力低下気味の方にはギャッジアップ・ダウンでき、高さも調節できるベッドを提供している。また、居室にポータブルトイレの設置とともに設置場所にも転倒に配慮するように努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯・ゴミ捨て・お絞りを巻き・カレンダーめくりなど、能力に応じた作業をなるべく負担をかけず、達成感を感じていただきながら作業を行ってもらうよう努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天候の良い日にはできるだけベランダにて日光浴や洗濯干しなどを行ってもらっている。また、菜園をもうけ収穫・植え付け等生きがいのツールにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
		○	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

できるだけ個別にお世話ができ、不安がなく笑顔で生活が過ごせるように今後も頑張っていきたい。